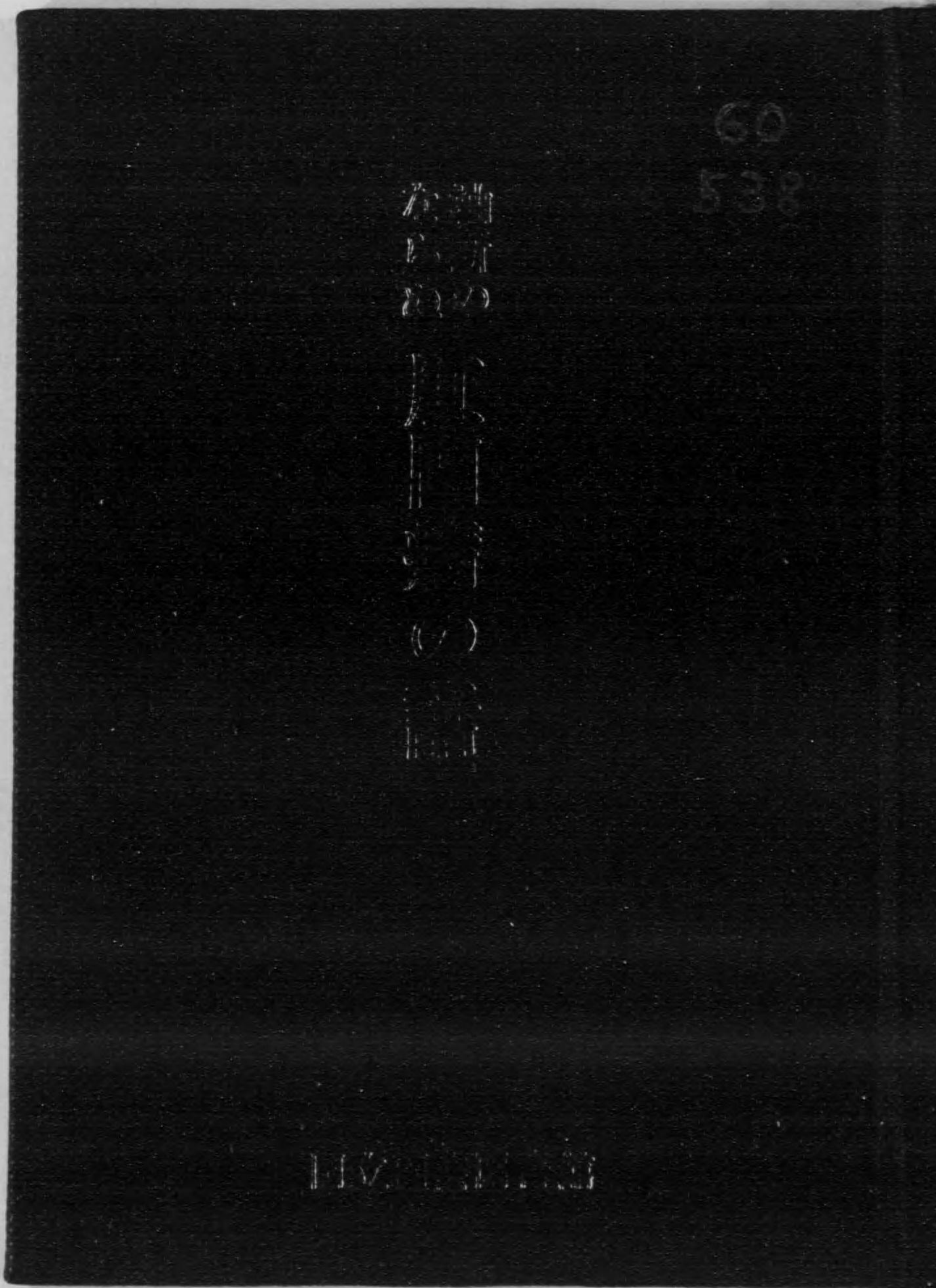


始



60
538

か
た
の
肌
門
精
の
話

1914年刊

100
169



油断の
ならぬ

肛門病の話

矢部肛門病院長述

大正
10 8.30
内交

60-538

一、

肛門こうもんの清潔せいせつは何なにより肝要かんよう

目めに見えぬ肛門奇麗こうもんきれいにして置おけ

顔かほの色いろまでつやつやとなる

ぬぐふ時ときふる新聞しんぶんや貼替はりかへの

障子しょうじの紙かみはつかはぬがよし

二、

便通整理べんつうせいりも亦肝要またかんよう

便秘べんぴする人ひとは必ず時とききめて

廁かわやに上のぼれ出でても出でぬでも

硬かたからずさりとて下痢げりの氣味きみもなく

三、程のよいのが上等の便
 食後の運動も亦必要
 氣もちよき咬へ揚子の運動は
 痔疾をなやむ人の妙薬
 四、飲食物の注意
 酸い甘い人の好みに任せても
 あまり辛は人の禁物
 何事も辛棒が大事附けの
 ちよいと一本さらによめやめ

目次

第一章 緒言……………一
 第二章 肛門及直腸の畸形(鎖肛症)……………五
 第三章 肛門及直腸の外傷……………九
 第四章 直腸内異物……………一〇
 第五章 肛門及直腸の炎症性諸病……………一七
 一 肛門部の濕疹 二 肛門搔痒症 三 直腸周圍
 炎 四 肛門及直腸の潰瘍
 第六章 痔瘻……………二九

目次

第七章 肛門及直腸狭窄…………… 四〇

第八章 脱肛及直腸脱…………… 五二

第九章 痔核…………… 五五

第十章 肛門及直腸の腫瘍…………… 七一

目次終

油断の 肛門病の話

矢部肛門病院長述



第一章 緒言

人間は誰しも無病息才で暮りたいとは思ひますが、時には不幸にして病に冒されることがあるものです。然し例へ一旦胃

第一章 緒言

第一章 緒言

されても、自己の注意と醫士の治療とによりて、充分回復し得られるものですから、左程心配することもありません。さて其吾人が惱まざるゝ病氣の種類は、昔は四百四病と申されましたが、現今では其れがもつと系統的に正しく分類せられて、何千何百と云ふ程多くなりました。其れかといふて別に病氣が昔よりも増へた譯では無いが、病理學の進歩によりて病名が増へ、従つて其れ々々治療の方法等も充分行き届く様になつたと云ふ丈けで有ります。例へば昔は腰が痛ければ一寸した神経痛から、結核梅毒癌等の恐る可き病氣迄も一括して、只疝氣とのみ申して居ました。又肛門が悪くても、同様

肛門に出來た皮膚病痔核でも、痔瘻癌等の如き恐る可き病氣をも、一口に痔と申して居りました様な譯で、随分呑氣なものでした。

さて其の肛門に出來る病氣は随分種類が多く有ります。俚言にカサ氣と痔の氣の無いものはなしと申して、殆ど國民的疾

第一章 緒言

を見、遂には生命をも失ふ様な例は數限りなく有ります、誠に此れは残念な事と存じます故に、もつと肛門病に關する智識を、一般に普及せしめ、他の病氣と同じく、充分の注意を拂はるゝ様に致したいと思ひ考へますのは、吾々専門醫者の義務なりと信じます。

前にも申した通り、一口に痔と申されて居りますが、仲々種類が多く有りますから、とても詳しくは申されませぬが、普通一般の人々の注意を要する點のみを各病に就て簡単に説明致さうと存じます。

第二章 肛門及び直腸の畸形(鎖肛症)

此れは先天性と申して、生れ落ちるから肛門が閉鎖して居て孔が無いものと、肛門が尋常の位置に開口しないで、異つた所に孔の有る病で有ります。特に御注意を願ひたいのは、孔が無いもので有ります、此れを鎖肛症と名づけて居ります、孔なしで生れた小供でも、生れると直ぐに嚙下作用を営みます、そうすると口内にある細菌が、お腹の中へ行つて分解作用を起して、瓦斯が発生して、出道がないので、お腹は大鼓

第二章 肛門及び直腸の畸形(鎖肛症)

の様になり、顔色は紫色に變つて、嘔吐を初めます、此れを捨て置けば、四日乃至六日の後に死亡致します、稀には十三日も生きて居たものもあります、其の儘置けば何れも皆死亡するに定まつて居ます、故に小兒が生れると、直ぐ肛門を見て大便が出るか出ないかを見る事が大切であります、不幸にして孔がなければ、小児の體力が消耗しない前に、なるべく早く手術して、肛門を造らなければ成りません、親の不注意とか、嬰兒に手術を施すのが餘り不憫だとか、何とか、姑息の爲めに手遅れに成つてから、吾々を訪ねて来るものが多いのは残念であります。此れは一刻を争ふ病氣で有り

第二章 肛門及び直腸の畸形(鎖肛症)

ますから出産後手足の指を數へると同時に、孔の有無をしらべるのが尤も肝要と存じます。此の病氣に對して、手術で肛門を作つて、其の成績は如何であるか、参考の爲めアンデルス氏百例の統計を擧げて見ましよう。

- 一 肛門が欠存せるもの 十一人の中二七%死亡
- 二 直腸が欠存せる者 二十七人の中四〇%死亡
- 三 肛門及び直腸の欠存せるもの 一人の中五五%死亡
- 四 肛門が欠存し大便が尿道及び膀胱に出づ

第二章 肛門及び直腸の畸形(鎖肛症)

る者

一二人の中七五%死亡

五 肛門が欠存し大便が

腔前庭に出づるもの

二七人の中七%死亡

六 肛門が欠存して會陰

又は陰囊に小さな孔

を以て大便の出づる

もの

五人の中に二〇%死亡

但し此の百例中三人は手術しないで死亡しました、此の統計の中死亡した者は大抵手遅れになつてから醫師の手を煩した者であるのを見ても親の注意が如何に大切であるか

判ります。

第三章 肛門及び直腸の外傷

肛門も色々な場合に怪我をする事が有ります。其れに細菌が這入ると、直腸の周囲は鬆粗に出来て居りますから、病氣が蔓延し易く腹膜炎膿毒症を起して死亡する様なことが有ります。殊に注意すべきは家庭で浣腸などをなさる場合に灌腸器の尖端で直腸を傷くる事で有ります、此れは一つはやりかたが粗暴な事と、又一つは直腸に素人の氣が附かぬ病氣があり

第三章 肛門及び直腸の外傷

第四章 直腸内異物

ますと、一寸した刺戟でも其れが爲に、大きな創になり易いのに依るからであります。此れは随分恐る可きもので、此の爲に腹膜炎を起して死亡する事が有りますから斯様な場合には殊に注意を要する事と存じます。

第四章 直腸内異物

直腸の中に異物が有つて出ない事が有ります。魚骨、魚のクシ、義歯、甚しきはホークなどを、口から嚥下しましたのが何時か腸管内を通過して、直腸内に留まる事が有ります。魚

の骨が直腸内にクスがることは、屢々あることで、吾々も屢々實驗する事で有ります。殊に私が驚たのは、一人の老人が朝から便意を催して、便所に行くや疼痛が甚だしくて堪へ難いと申して私の所へ来ました。肛門に指を入れて見ると、丁度大きな栗の栗刺が、直腸内に有る様に思はれました。其處でこれを少し宛碎て出して見ると、其れは栗刺では無くて、骨の塊りで有りました。所が容易に出す事が出来ないので、止を得ず脊髄麻酔をかけて出して見ましたら、どうです其れは、鱈の骨が眞丸く球の様に塊つて居りました。聞て見ると二日前に此の人は、鱈を澤山骨ぐるみ食べたと申しましたの

第四章 直腸内異物

第四章 直腸内異物

で、其の原因が解りました。又矢張これも老人で、同様なる訴へで来た人が有りました。是亦肛門に指を入れて見ると、今度は長さ五寸許りの、細き棒のある事を探り、今度は器械を以て取り出しましたら、これは魚の串でありました。斯う云ふ事は屢々有る事ですから、魚を骨さら食べる事は、戒む可き事で有りますが、殊に義齒を用ひて居る人は、口中の感覺が鈍いので、魚の串の如き大きな物でも、知らずに嚙み込む事が、無いとも限りませぬから、強ち老人で無くても、充分注意す可き事で有ります。又此れも矢張老人でありましたが、四日程前から便通が無くて、醫者の所へ来て下劑をかけ

第四章 直腸内異物

たり、浣腸しましたが便通がなく、腹は漸々大きく膨満して嘔氣を催し、丁度腸管閉塞症の如き容態となりて、私の所へツリ込みました、診察して見ますと、何となく容體も、悪しく、病人も苦しうで、脈は随分悪くなつて居りました、肛門に指を入れて見ると、直腸内は糞塊と、柿の種大の堅き物が、澤山有る事が判断せられましたから、指で少しづつ大便を出して見ると、果して柿の種が有りました、兎に角大便をすつかり出さなければならぬので、指を入れて、糞塊を掘り出しては浣腸し、浣腸しては掘り出して見ました所が、柿の種は驚く可し數百個もありました。而して直腸が空虚と

なりましたから、腹部は急に小さくなり、脈もよくなり、今迄瀕死の病人が即座に能くなりました、一同大嬉びで、色々と本人に尋ねて見きすと、此の老人は齒が無い人で、柿の熟せる物を種さら食べたと申しました。こう云ふ事もある事ですから、魚の骨計りで無く、果實を種さら食へる事も、随分危険な事でありませう。

又便通後肛門を拭ふに、粗造な紙、海藻、木片、石などで、拭ふ事が習慣となつて居る所があります。曾て私の所へ、數日前より肛門が腫張て痛が甚だしく、夜間も眠られぬと申して來た方が有ります。見ると肛門の右側が、非常に腫れて、

膿が貯蓄て居ました、翌日手術して見ると、膿中から木片が現れて來ました、聞いて見ると、此の人は木片で、肛門を拭ふのが習慣だと申しました。斯様な例は、私が實驗した物だけでも、枚舉に暇が無い程で有ります、實に注意すべき事と思ひます。

さて社會中流以上の人で、何にでも贅澤をする富裕の人でも、どう云ふものか便所の紙だけは、新聞紙などを使ふて居る人を往々見受けますが、新聞紙は硬くて滑り易く、充分清潔に拭ひ取る事が出來ぬ許りでなく、時とすると紙の織毛が肛門に附着して居る事が有つて、肛門衛生上良く無い事で、誠に

第四章 直腸内異物

此れは困る事と存じます。尤も現今では、木片石などを使ふ所は少い様ですが、まだ山間僻地に参りますと、使ふて居る所もありませ、斯様な事は是非廢めて頂きたいのであります。たとへ衣服は粗末でも、便所の紙丈は、柔かな清潔の紙を使ふ様にして欲しいので有ります。そうしてつまり肛門は、内部からも外部からも傷つけぬ様に大切に且つ清潔にしたならば、肛門病はもつと減づる事と思ひます。

第五章 肛門及び直腸の炎症性諸病

第一 肛門部の濕疹

此れは肛門周囲の皮膚が赤くたゞれ、重くなると皮膚の剝脱が出來て、焼くが如き痛みを覺える皮膚病であります。本症は肥滿せる人を侵し易く、肛門の毛髮に大便が附着して、堅くなつて局所を摩擦し、其所へ汗が出ると、皮膚を刺戟して起るのでありますから、此の病氣を防ぐには、柔き清潔なる紙で肛門を拭ひ、毎日入浴の際には指で肛門を奇麗に洗ふのが

第五章 肛門部の濕疹

何よりであります。

第二 肛門搔痒症

本症は常に肛門部に不快なる感ありて、夜間に就床して温かになると、非常なる搔痒を起す病であります。肛門を見ても皮膚に何等の變化が無い場合も有り、或は搔抓の爲めに起つた、かき創、又は慢性の皮膚病が有ることとが有ります。永く本症に悩まされると、安眠を妨げられ非常なる神経質に陥り貧血、衰弱を起す事があります。本症の原因は種々ありますが、多くは常に座して居る人、便秘、直腸カタル痔核、ポ

リープ、子宮疾患、糖尿病などの人が罹り易いので有ります。其の他刺激性の食物を食べると肛門が搔くなることと有ります。曾て私の所へ、二日程前から終日肛門が搔くて夜間も安眠が出来ないと申して来た人が有りました。肛門皮膚は眞赤になつて、大分強い搔き創が有りました、能く見ると唐辛の種が、肛門皮膚の皺壁にはさがつて居ました、此れを取つて肛門を清潔にして置きましたら、直ぐに治つてしまひました。こう云ふ事もある事ですから、食物につきても、常に注意す可きことと思ひます。又小兒に能くありますが、蟻と申して、細い一分許りの蟲が直腸に寄生して、肛門の所へ出て來

第五章 直腸周圍炎

てビチ／＼ハネルので、肛門が搔く、殊に夜間に激しく成て、小兒は眠る事が出来ず、貧血神経衰弱などを起す事が有ります。又搔くて肛門を搔くので其の所に創が出来て細菌が侵入して、肛門がうむ事があります。小兒で、肛門周圍炎を起して、私の所へ来た人の半数以上は、いつも蟻蟲を見る事がありますから蟲の寄生して居る人は驅蟲する事が甚だ大切な事と存じます。蟻蟲を早く醫藥に依つて除いてしまへば、そんな大事に至らないですむ事も有らふと存じます。

第三 直腸周圍炎

第五章 直腸周圍炎

肛門及び直腸の周圍に、膿を持つ病氣で有りまして、中々多い病氣で有ります、此に罹ると、痛みは激烈で、夜間も安眠が出来ない事があります、此の痛みは、排便時に殊に激増します、其れ故患者は、成る可く大便を出すのを厭ふて食事も餘りしないと申して来る人が多くあります。膿が貯つて居る結果三十九度から四十度位の熱が出る事が有ります。肛門周圍の皮膚は赤くなつて腫れて來まして、一寸觸れても非常に痛みを感じます、此の場合には、迅かに切開して、膿を出さなければなりません、然らざれば肛門周圍の組織は非常に鬆粗なる事と肛門括約筋が輪狀に走つて居る爲めに、膿は迅

かに肛門全周囲に廣がり、不幸な場合には生命にもかゝはる様になる事もあります。幸なる場合には、膿が自然に破れて痛みは止まりますが、其の儘には決して治るものではありません、必ず後に痔瘻を残します。

本症の原因は、肛門及び直腸の凡ての病氣が、原因となつて起ります。例へば前にも申した通り肛門及び直腸に外傷を受けた場合に、其の所に細菌が侵入すると肛門周囲炎を起します。又魚の骨とか、小さな異物が肛門に来て、粘膜を傷け細菌が這入ると本症を起す。又大便が堅くて、肛門を通過する場合に、肛門の粘膜が切れる事があります、其の場合に細菌が這

入ると、やはり本症を起すと云ふ様に肛門の色々な病氣が源となつて、本症を引き起しますから、此の病氣を豫防するには、少しでも肛門に異常の有る事を見出したならば、早速醫師に就て治療を受けて置かなければ成りません。

又肛門附近の病が源となつて、本症を起すことが有ります。例へば、男子ならば攝護腺、尿道等の化膿より、本症を起す事もあります。女子でありますと、バルトリー氏腺とか、子宮附屬器官の化膿より、本症を起す事もあります。

尚ほ脊柱骨盤の骨が化膿して、其の膿が肛門附近に下つて來て本症を起す事もあります。本症の療法は、切開するより外

に手段が有りません。切開すれば丁度空腹時に食事をすると同様に、直ぐに痛みは去つて楽になります。誠に造作も無い事です。それに此の病の患者で、痛みの爲め数日間夜も眠られず、食事も出来ず、高熱があるので、非常に難義を感じながら、切開手術を勧めた場合、手術を恐れて受けずに歸る人も偶には有りますが、其れは大變に間違つた考の人で、實にわけの判らない人と云はねばなりません。醫術が進歩した今日の場合、痔の手術は決して危険でも何でもなく、極手軽に出来て、而してこれを根治する事の出来るものですのに、これを恐れて其の時機を失する等と云ふ事は誠に残念なことで

あると思ひます。

第四 肛門及び直腸の潰瘍

肛門周囲には、軟性下疳と申す潰瘍が出来ることが有ります。殊に婦人の外陰部に下疳が有りますと、其の分泌物が肛門の方に流れて来て、肛門に傳染して起ることが有ります。又黴毒の第二期、第三期の出来物が、肛門に来る事が甚だ多くあります。昔の人が、痔と黴毒とは同一の病だと信じて居たのも、無理の無い事で有ります。直腸に黴毒性の大きな潰瘍が出来て、其れが治療をせずに置きますと、直腸は段々狭

第五章 肛門及び直腸の潰瘍

くなりまして、直腸狭窄と云ふ病氣を起すことが有ります。肛門及び直腸の粘膜には結核性潰瘍が出来る事があります。此れは肺病患者が結核菌を含んで居る喀痰を呑み込みました時、其の結核菌が大便と共に肛門部に達して、此所に沈着繁殖して潰瘍が出来る場合が多くあります。他の部分に結核性疾患が無くて、原發性に肛門部に潰瘍が出来る事は甚だ稀であります。本病の治療法は原因に依りて異なります、殊に結核及び微毒が原因となつて出来た物ですと、局所療法に兼ねて全身療法が頗る肝要で有ります、局所療法として最も確實なる方法は手術で有ります。

第五 肛門輝裂

本症は、肛門皺裂の間に小さな創が出来て、非常に強い痛みを起し、出血する所の病で有ります。痛の結果、小便まで出なくなる事があります。又肛門の痛みの爲めに、股関節や膝関節の痛みを起し、肢が伸びなくなる様な事も有ります。曾て或る外科醫に、股関節炎と診断せられて、數日間専ら股関節炎の治療を受けた小兒が、肛門から出血するので、私の所へ來ました依りて肛門皺裂の手術を致しましたら、不思議や今迄の股関節炎と云ふて居た方も、一度に治つてしまつた

第五章 肛門輝裂

第五章 肛門輝裂

事が有ります。

原因は、大便が非常に硬い場合に努責して無理に大便を出す
と、大便が肛門を通過する場合に、此の皸裂が起ることが有
ります。又異物の爲めに肛門に創が出来ることが有ります。
然し通常硬い大便を出せば、誰でも肛門に必ず創が付くかと
いふに、そうではありませぬ、創が付くには何か他に肛門に
創付き易くなる原因が無くては無らないので有ります。例へ
ば、痔核が有る人ですと痔核を被つて居る粘膜が非常に薄く
なつて居ります、其の場合に排便時に強く努責しますと、粘
膜下にある所の痔核は非常に強く緊張し、其れが爲に薄くな

第六章 痔瘻

つて居る所の粘膜に損傷が出来て、遂に此の病を起すのであ
ります。統計に依りますと、本症を持つて居る人の七乃至八
割は痔核患者で有ります、又肛門を不潔にして置きますと肛
門部の皮膚病を起し、其の爲めに又本症を起す原因となる事
も有ります。

本症は肛門及び直腸下部の周圍に孔があいて、其の孔から膿

第六章 痔瘻

が出る所の疾で有ります。此の痔瘻には色々な形が有ります
即ち

- 一、肛門周囲の皮膚に孔があいて、其の孔からトンネルが出來て、其のトンネルは直腸壁の粘膜下のところまで行つて、粘膜を穿孔せずに盲端に終る所のもの、此れを外不全痔瘻と名づけて居ります。
- 二、又前者と反對に、直腸壁に孔があいて、其の孔からトンネルが出來て、其のトンネルが皮膚の外表に迄達しないものあります。此れを内不全痔瘻と命名して有ります。
- 三、肛門周囲の皮膚に孔があいて、其の孔からトンネルが出

來て、其のトンネルが直腸壁を穿孔して、皮膚の方の孔と直腸内の孔と、相交通するもの、此れを全痔瘻と名づけます。原因は、肛門周囲炎の膿汁が自然と潰れて出た跡か、又肛門周囲炎に罹つた時、不完全な手術を行つた場合に、膿腔が次第に縮小して、周囲に硬い瘻痕が出來て、其の瘻痕の内に肉芽組織を蒙つて居る所の、細いトンネルの様なものが出て來ます。そして、此のトンネルは、決して自然には治癒致さぬもので、此れが即ち痔瘻と申します。

即ち痔瘻の基は、いつでも常に肛門周囲炎から起るので有ります。痔瘻から細菌を採つて検査して見ますと、單純の化膿

菌が原因となつて居ると、結核菌が原因となつて居ると有ります、結核菌が原因となつて居る事も、仲々數多くあります。

然らば、如何にして結核菌が痔瘻を起すかと申しますと、肺結核患者が能く咯痰を呑み込みます、其の咯痰の中には、結核菌を多數に含有して居ります、其の結核菌が腸管内を通過して、直腸に迄達します、所で便通が幾日も無いことがありまして、硬い大便が直腸を通過する場合に、時に肛門に損傷が起ります。其の創の内に嚥下した結核菌が這入り込んで、結核性の肛門周圍炎を起し、膿が破れて痔瘻となる様な場合

も有ります。又最初單純の化膿菌が基で、痔瘻を起した場合にでも、結核菌を含有する咯痰を呑み込んだ場合には痔瘻の内に結核菌の這り込んで、最初は只の痔瘻で有つた者が、遂に結核性の痔瘻に變化する事もあります。

又身體のいづれかの場所に、結核がありますと、結核菌が血液の中に混入して、全身を循環して居る内に、若しも肛門周圍が其の菌に對して抵抗力でも弱くなつて居た場合には、其の所に結核菌が沈着して、結核性の肛門周圍炎を起して、結核性痔瘻と變化します。

又此れと反對に、體が丈夫な人でも結核性の痔瘻を起す事が

あります。其れは食物、例へば牛乳中に結核菌を含有して居ると假定します、其の牛乳を煮沸せず飲みますと、結核菌が肛門周囲に取り付いて、結核性痔瘻を起し、此れを捨て置きますと其所から結核が蔓延して他の部分の結核をもひき起すことも有ります。

痔瘻患者の全部を丁寧に診察して見ますと、患者の割乃至割四分は、肺結核を持つて居ります。然しながら、肺結核患者の人でも、勿論非結核性の痔瘻を以つて居る事も有るゝで有ります。

痔瘻の容態は、痔瘻の形に依つて、種々なる症状を呈します。

外不全痔瘻は、最も苦痛の少い形で有ります。即ち、肛門部に濕潤の感、搔痒の感、便通時に不快の感が起る位の所有ります。

内不全痔瘻となりますと、直腸の内部に不定の疼痛を起し、此の痛みは排便に依りて増激します。又時に膿汁及び血液を出す事があります、疾病の経過中に、トンネル内に膿汁が貯蓄つて、急性化膿の容態を起す事があります。

全痔瘻は、實に不快の感が致します、即ちトンネル内にて生成した膿汁の外、トンネル内に糞便が侵入して、此等が外孔から外部に出て、肛門部の皮膚を濕潤刺戟して炎症を起しま

す。又此のトンネルを通じて放屁が出る事が有ります、加之患部に痛みを覚えて、裏急後重（幾度も大便秘行つてもまだ便意のある状態）を起す事が有ります。

本症に對して、最も適當にして且つ確實なる治療は、只手術あるのみであります。迅かに手術によりて根治しなければ、悔を後に残す事が有ります、又全く治療せずに捨て置けば、どんな結果になるで有りませうか、次に之を簡単に述べて置きます。

一、先に述べました症状が年中續いて、苦痛に堪へない事は勿論であります。

二、トンネルの数が段々と増へて、初期に治療すれば、樂に早く治るものでも、ひどくなると治療が中々に困難となります。

三、痔瘻から絶えず膿汁を分泌致します、其の膿汁は大切な血液から出来る物で、毎日く／＼身體から出血して、居るのと同ーでありますから、強度の貧血を起します。尙トンネル内で細菌が産生した毒素が、血液内に吸収せられて非常に體を衰弱せしめます。

四、痔瘻の内に悪い細菌でも這入りますと、創傷傳染病を起して、其の爲めに生命を失ふ様な場合もあります。

五、前に述べました如く、始めは單純な痔瘻でしかも身體中何處にも結核を以て居ない人でも食物中に結核菌が含有せられた場合に、此れが痔瘻内に侵入し、結核性の痔瘻となり、尙ほこれを放任して置きますと、結核が他の部分に蔓延する事もあります。

斯る危険性のある病氣にも係らず、一、何痔位と申して、此れを放置致したり。二、痔瘻を療治すると肺病になるとか。

三、手術が苦痛だとか申して手術を嫌惡する等は、甚だ嘆ず可きの至りだと思ひます。依て私は常に患者から質問せらるる所の、右の三項に就て述べたいと存じます。

一、第一の痔位と放任して、輕蔑し置く人も、前に述べた痔瘻の危険な事を見た場合には、必ず明瞭に其の誤れる考で有つたと云ふ事が判る事で有りませう。

二、昔から痔瘻を療治すると、肺病になると申しました。此れは日本ばかりでなく、西洋でもそう云ふ考を持つて居つた時代も有ります。殊に甚だしいのは、極く昔、肺病を治す爲めに態々醫者が手術によつて、痔瘻を造つた様な歴史も残つて居るのであります。昔は身體の内の惡血が膿汁となつて出て来て、此れが澤山出ると毒が取れると思ふて居たから、痔瘻から肺病の毒が出て、肺病が治る、丁度痔瘻を髓の内の安

全辨であるかの如く、考へたからで有ります。斯様な誤を信ぜらるゝ人が、今日に於ても比較的多いのは不可思議の事と存じます。尤も實際に痔瘻を療治した後、肺病のために、死ぬる人も有りますが、之れは決して痔瘻を療治したから、其の爲めに肺病に成つた理では有りません、前の痔瘻の原因の所で申した如く、肺結核を以つて居る人が比較的多く痔瘻を病みますからです、而して其の肺結核が、所謂進行性の肺結核で、其の上痔瘻を病んで居る人を知らずに、痔瘻の手術を致した場合には、手術の爲ではなくて以前から盛に進行しつつある、肺結核の爲めに死ぬるものであります。決して手術

其のものが原因となつて、肺病が出た理では有りませんから安心して手術を受くるがよいのです。尤も、私共の方では、肺結核で痔瘻のある人の手術をする場合には、極めて慎重に肺の方の検査をしなくてはなりません。進行性の肺結核の場合には最早手術の必要はないのであります、手術した所で肺病の方が進行して生命をうばふとすれば、今さら痔瘻の手術も、何の効果も無いから施すにも當らぬこととです。此れに反して、肺の方の症状は随分ひどくとも進行性を以て居ない場合には、手術するのが當然であります、吾も痔瘻を手術した後、以前悪かつた肺の方の容態が能くな

つて来る場合を、屢々實驗するので有ります。此れはどう云ふ理でせう、即ち世人も能く承知の通り、肺結核療法に最も必要なことは、榮養療法で有ります。然るにいくら滋養物を食べても、痔瘻の孔から始終膿汁即ち蛋白質が出た場合には、折角食べた滋養物も何にも食べないことゝ、同じ結果になるのみならず、体内で折角諸機關が骨折つて、食物から立派な血液に迄仕上げた所の勞力が、零となつて體は益々衰弱するのみで有ります。然かに痔瘻を根治した爲め最早蛋白質の消耗も來たさない様になれば榮養が能くなり體は微菌に對する抵抗力が増へて結核菌は其の人の體の中に生存を許さなくな

つて遂に死滅してしまひますから従つて肺の方も全治すると云ふ理であります。

吾々が痔瘻に對して手術を推奨した場合に、痔瘻を治しても體に害はないかと聞かれる事が能くあります、其の度毎に世人の醫學思想の乏い事を嘆かずには居られないのであります。何故なれば、醫者は體の局部を治すのを理想にして居る者では有りません、體全體を觀察して體全體の健康を保持するが爲めに、一局部の病氣を治すのであります、體全體の健康に無關係な事なら何も手術する必要はないのであります。其故素人考は止めて醫士の勸めに従はなければ大に後悔する様

の事が起ります。

三、手術の苦痛を、非常に恐れる人が多くありまして、茲に一患者が有つて手術を施さなければ治らないと告げた場合には、輒ち患者は言を左右に托して其の醫を辭し、又去つて他の醫を訪ひ、若し診斷が前者と異ならない場合には、直ちに之れを辭するので有ります。此の如くにして多數の醫家を歴訪して、各々診斷が異ならず、且つ疾病が益々重態に陥るに及んで、甫めて姑息療法に安ずるを得ずして、手術を受ける事に決した場合には、己に其の時期を失して居る様なことは、屢々あることで有ります。斯様に手術は現今に於ても尙ほ患

者に苦痛を與ふるもので有りませうか、否々、決して然うでは有りませぬ。従來の麻酔法は、不完全で有りまして、患者は多大の苦痛を忍ばなければならなかつたので、世俗一般は今に於ても尙ほ手術は非常の苦痛の有る物と信じて居りますけれども、現今に於ては、吾々は全力を盡して研究の結果、己に完全なる麻酔法を考案し、患者に少しも苦痛を感じしめずして、喜んで手術を受けしめ病の未だ膏肓に入らざるに、先て之れを救ふ事が出来る様に成つたので有ります。手術に際して、痛みを患者に與へるのは、醫者の施術法が當を得ないからであります、普通に現今の醫學を應用して手術すれば、

決して苦痛は無い筈で有ります。此の如き今日の非常なる進歩したる手術の恩恵を、早く世に紹介する事は、實に醫師の大なる天職で有ると信じます。尙世人一般は、手術後創は痛い物だと信じて居ります。此れも大なる誤りで有ります、今日に於ては、手術創は全く痛みの無い物で有ります。勿論醫者が未だ消毒法を完全に知らなかつた時代には、創に膿を以つて、非常に痛かつたので有りますが、今日に於ては消毒法が進歩して、患部に細菌を入れず手術する故、創が痛くないので有ります。若し創に痛みがあるとなれば、それは消毒法が悪いとか、手術が不充分とか

何か、他に原因が無ければならないのであります。

第七章 肛門及び直腸狭窄

此れは、肛門又は直腸が尋常よりは狭くなり、甚だしきは細い火箸が辛ふじて通る位となる疾であります、其の爲めに大便を出すに非常な困難になりまして、年中便通が思ふ様に出来ず。大便は、多くは扁平、帶狀になつて出る物であります。斯様に大便が出にくい爲に、直腸がただれて、慢性直腸加多兒の様な容態を呈して、粘液及び膿汁を出し重くなりま

すと血液も出る事があります。斯くして粘液、膿汁、血液等が澤山直腸内に貯留しますと、度々大便に行き度くなるそして、それが睡眠して居つて覺醒した時に、よけいひどくなつて來ますから、患者は迅かに上圖します、出た物を見ると、大便でなくて粘液や膿汁許り出るのであります、斯様な症状が永い間續きますと、榮養不良となつて悪液質に陥り、最も不良なる場合には、大便が滯積して腸管閉塞症を起して、遂に死ぬる場合もあります。

原因は、先天性に肛門又は直腸が狭くなつて生れて來る人もあります、又梅毒とか、淋疾が基となつて來ることも有りま
す、又直腸に出來物が出來て、狭くなることもあり、其
の他直腸に隣接して居る臓器が腫れて、直腸を壓迫して狭く
なることもあり、

療法は前の第二章に一寸申し述べて置きました通り、最初小
兒が生れたら先づ肛門を見て、異常はないか又便通の有様を
見て異常はないかを検査しなければなりません。下水の道が
塞つて居て、流通が悪くて健康を保つ事が出來ない事は明瞭
なる事であり、若し狭くなつて居た時とか、便通が困難
の場合には、直ぐに醫者に見せて、一命を取りとめなくては
ならぬことは、前にも述べました通りであります。又梅毒と

か、淋病とか云ふ方から来たものならば、早く治してこんな難儀な病氣にならない様にしないでなりました。世間には梅毒のために本症を起す人が澤山あります、吾々が斯様な患者を見る毎に、何故もつと早く醫者の治療を受けなかつたと、患者に小言の一つも云ひ度くなりません。なぜなれば、初期に治療すれば狭窄にも成らず、迅かに梅毒も全治して、こんな苦痛を見るには及ばないからであります。ところが往々狭窄症状が呈れてから、十数年も経つて吾々を訪問する人が中々多いのであります、斯様な人に聞いて見ると、私は胃腸が弱くて十數年間醫者にかゝつて居りましたが、どうも治らぬの

で困りますと云ふて、少しも肛門の方には注意を拂つて居りませぬのみならず、投薬せらるる醫士も、一向氣の附かぬ様子で居らるるのもあります、實にこんな人は不幸な人で患者もよく今迄辛棒でしたが、醫者もよく見て居た物と、今さらの様に見ふことがあります。少し汚くても、肛門に指を一度入れて見れば、直ぐ判ることだのに、遂にそれをしなかつた爲に、治療の時機を失して、大事を仕出かす様になる事が有ります。其れ故、若し便通が出にくい場合に、胃腸ばかりを心配せず、少しは肛門の方も思ふて呉れなければならぬ事と思ひます。斯様な患者に適當なる治療を施しますと、直ぐに

便通は樂になり榮養は恢復する物で有ります、治療法としては、場合に依つてはブジと申す太き棒を、狭窄部に入れたり、場合に依れば手術を致します、手術は最も確實なる方法であります。

第八章 脱肛及び直腸脱

本症は直腸の一部分が、肛門外に脱出する所の疾であります、本病の始めは、只硬便が出る時にのみ脱肛を起し、排便が終れば自然と本に戻りますが、少し高度の物となりますと、中

中自然に還納する事が困難となりまして、排便の度毎に指で壓へ込まなければ這入りません。それも度重なれば、便通の時間は永くなるし、挿し込むのも非常に苦痛になる物であります、而して時日を経過する時は、排便時に直腸壁が脱出するのみならず、咳嗽、起立、歩行の際に忽ちに脱肛する事があります。脱出の大きさは、初めは小さけれども大きくなると兒頭大位なのが有ります。斯様なことが續きますと、腸壁が器械的に摩擦せられて、腸壁に創が出来て出血します、常に出血する結果、貧血して衰弱することが有ります。又其の腸壁に創が出来て、非常に疼痛を起す事も有ります、又時とし

ますと、脱出した腸壁が元の通りに還納することが出来なくなつて、脱出した腸の一部分が括約筋の爲めに絞められて、腐つて来る事が有ります。又常に脱肛のある人は、消化障礙をも起し易いのであります。

本病に罹つた場合には、早く手當をすれば譯もなく全治しますけれども、捨て置く時は前に述べました様な、色々の害が起りますから、是非時機を失はぬ様に、治療しなければならぬ。

手當としては、各々病氣の容態に従つて色々で器械的療法もあれば、注射療法又手術療法も有りますが最も確實なるは手

術的療法で有ります。

第九章 痔核

本症は、肛門及び直腸の下端に、豌豆大より胡豆大の結節を生ずる疾であります。此の結節は静脈が通常より過度に擴張したものであると申されるし、又一種の腫瘍で有るとも云はれるし、本態が未だ確定致して居りません。

原因は總て、肛門及び直腸の静脈の循環が悪くなつて、此所に鬱血を起さしめるといふ所の事柄は、皆本症の原因となる

ので有ります。即ち殊に多く原因となるのは、常習便秘で有ります。即ち便通が数日間もなければ、糞塊が直腸内に貯留して、直腸下部の静脈を壓して、血液の還流を悪しくして、痔核を起すので有ります。直腸加多兒の爲めに、幾度も便通に行つて努責したり、下劑を連用して幾度も上圍して努責した場合にも、痔核を起し易いので有ります。其の他、下腹部の腫瘍とか、又妊娠中に兒頭が静脈を壓迫する爲め、痔核を起し易くなることもあります。以上の如き種々の原因がある時には、必ず全部痔核になるかと申すに、左様ではありませぬ、これは痔核に罹り易い素因が前よりあると云ふ事に與つ

て居らなければなりません。

此の素因は何かと申しますと、祖先より遺傳すると申して居る學者も有りますし、又他に起因するとも申して居りますが、實際吾々も、本症に遺傳的關係が有る事は信じて居る者であります。

痔核には種類が色々あります、先づ肛門外皮の下に結節が有つて、外に呈はれて居る物此れを外痔核と云ひ、直腸下端で見えない所に結節が出来るもの、此れを内痔核と名づけて居ります、各其の種類に依つて容態も亦異つて呈れます。外痔核は、本来餘り苦痛が多くない物で、僅かに搔痒の感灼

熱の感がある位の物でありますが、此れに炎症々状が加はりますと、結節は腫れて甚だしい疼痛が起り、肛門内に何か異物でも有る様な感じがし、幾度も便通に行き度い感じがします、悪く行くと之れが化膿して、痔瘻となることも有ります。内痔核は、外からは一寸見えませぬが、外痔核に比して害の多い者であります。此れは初めは永い間潜伏して餘り、大した苦痛が無くして肛門内に異常の感があるか、又は壓へらるが如き感覚、便通時の軽度の痛み位な所で居りますが、後になると便通時に出血が起ります。此の出血は、初めの内は大便秘の表面に、血液が附いて出て来る位で有りますが、ひどく

なると便通時に努めますと、動脈でも切れた様に、血液が線状に迸出して随分強い出血を起す事があります、而して排便の度毎に出血が繰り返されて、遂には非常な悪性貧血に陥る事が有ります。又内痔核は排便時に糞塊が下降する時、結節が大便秘の爲に下方に押し出されて、肛門外に出て来る事があります、此の押し出された痔核は、軽い間は排便後には自然に復に納りますが、ひどくなると、自然に納らなくなつて、非常の痛みを起す事が有ります。よし又便通後、うまく此れを納めて置いて、咳嗽、歩行の際などに直ぐに外に出る事が有ります、又無理にも中々復に納らなくなる事が有ります。

第九章 痔核

ます、そうなると、痔核は括約筋の爲めに、強く絞められて、腫張が益々増へて、劇甚なる痛みを起し裏急後重、時としては尿閉を起し、發熱嘔吐などを來すことが有つて遂には膿毒症を起して不幸なる轉歸を取る事があります。

痔核の養生法は、成る可く原因となる可き諸條件を除くのが、肝要で有るので、便通は餘り硬くなく、さりとして下痢もせず、程よく毎日一回或は二回時間を定めて排便するのが必要で有ります。然るに日々食餌を詰め込む許りで、數日間も便通が無い時には、糞便は永く直腸内に滯積して、漸々水分が無くなつて乾燥して硬くなります、そうすると偶々便意を催して

第九章 痔核

便所に行つても、思ふ様に快通しないから、是非努責する様になり、努責が劇しくなるから、自然に肛門に鬱血するので、其れが始終繰り返されるから、遂に痔核が起るので有ります。

故に痔核の豫防、又は此れを治療する上に於て、最も必要なことは、便秘を豫防することであり、最も必要なことは、大分横道に這りますが、大切な事で有りますから、少し詳細に便秘の豫防又は手當に就て述べ度いと存じます。

便秘を豫防するには、子供の時分より毎日必ず一定の時刻に上圍し、排便をなす習慣を養ふ事が必要な事で有ります。

食事は其の分量を定め、成る可く間食を廢し、食事の時間も規則正しくするのが必要で有ります。飲食物は人々の體質に依つて、反應が違ひますから、萬人皆同じ様な結果を得るとは限りませんが、大體から申しますと、濃き茶、珈琲、赤酒、カ、オ、チヨコレート等は便秘を來し易い物で有るから、便秘症の人は此れを避けなければならぬ、又茶を好む人に便秘があらば、此れは麥湯若しくは番茶の薄き物か、又は他の飲料物と代るがよい。

食物としては、野菜と果物と脂肪分の物を、適度に混食する事が何よりの要件です。野菜の中でも、緑色の野菜類、大根、

燕菁、甘藷、南瓜、自然生、蕎麥、豆類などは、最も通じをつける物ですが、其の代り、甘藷、南瓜、などは糞量を多くしますから、痔核患者には適當しません。果實の中には、通じをつけるものと、通じを止める物との、二種類あります。

林檎、杏、葡萄、乾燥せる棗、無花果の様な物は、通じをつけますし、桃や柿などは、秘結させます、密柑などは通じをつけると云ふよりも、多食すると腸を害して、下痢を起す物です。多食してはいけません。何でも果物は多食しない様に適度に食べるのが大切です。それから食物の中に、脂肪分が缺乏しますと、便秘を起しますから、時々油揚、天

麩羅、胡桃、胡麻、牛肉とかバター、の如き脂肪分を食べる
 事が必要です。其の代り脂肪分は消化が困難ですから、一方
 に大根卸の様な物を、食べるのが宜敷いのであります。大根
 卸しは何人が食べても、通じをつける功があります。然し唐
 辛、山葵等の如き刺激性の物は、痔には大毒であります。
 其の外日本酒、ビール等の如き酒精性飲量もいけません。
 其の他麦飯、半搗米、或は米を磨いだ白水で味噌汁を延ばし
 て、其れを毎日食べて居れば便通の具合が善くなります。日
 本人には鹽鮭、鹽鰯等、凡て鹽からき物、雪菜花等を食すれ
 ば、便通が良くなり、澤庵其の他漬物を多食すれば、便秘を

醫する効が有りますが、然し漬物は不消化故、適度に用ふる
 事は云ふ迄もありません。
 牛乳は通じを能くする事と、却て便秘を起す事が有りますか
 ら、體質に應じて取舍選擇の必要があります。
 又早朝空腹時にコップに一杯の冷水を飲用するのも便通を促
 す効能が有ります。
 又座業家には勤めて食後適宜の運動をするのが宜敷あります。
 運動としては野外の散歩が最もよい、此れは運動に兼ねて、
 新鮮なる空気を呼吸する事が出来るからであります。過度の
 運動は勿論戒む可き事です。此の適宜の運動を続けま

すと、便通も能くなり時としては軽症なる痔核は、此れに依つて治る事も有ります。又時としては早朝空腹時に、煙草を喫用しても便通を促す事があります。

其の他腹部のマツサージも亦便通を促す事が有ります、其の法は先づ腹壁を環状に擦過り、後に腹筋を揉捻で、次に大腸の按摩をするのです。之れを行ふには、一方の手の食指中指及び無名指を延ばして、此れ等の掌側を腹壁に押しつけ小さな圓を描きつゝ深く入り込む様にして、大腸を腹壁と骨盤との間に、強く揉捻し、他の手は、其の手の上に載せて、只其

の手を支へつゝ運動を助くるのみで有ります。此の揉捻は盲腸邊より初めて、大腸の経過に従つて、次第に進む様にするのであります。

此の腹部のマツサージは、食後二時間以内には、決して行はぬ様にせなければならぬ、又三十分間以上行つてはいけません。

又餘り便通が無い時には浣腸が宜敷いのです、下劑を濫用する事は最も慎むべき事でありませす。

以上便通の事に就て大分長く述べましたが、便秘の場合誰にも手療治で便通をつける様に勧める理ではありません。なぜ

なれば、便秘するには色々の原因がありまして、手療治に依つて治療の時期を失する様な例も多くあります故、便秘症の人は先づ醫師に相談して、外に心配な原因の無いと云ふ事が判つて後に、日々の養生法として前述の様な注意をしたならば、多少便秘を豫防する事が出来ると云ふ丈けで有ります。又痔核の根治療法をした後などにも、常習便秘の有る人には、養生法を一々患者に説明するのも煩はしいから、此所に序に書いて置いた丈けで有ります。

尙便秘が痔核に悪いと同様、下痢の連続する事も亦痔核の原因となる事が有りますから、下痢する場合には迅かに醫師に

かゝつて手當しなければなりません。

終りに肛門の清潔は又何より大切な事であり、肛門は排便作用を営む所で不潔になり易い所で有ります、故に毎日入浴する時には殊に注意して肛門を洗ふことが肝要です、其の適例として、印度には痔疾を病む人がないと云ふことであります、此れは彼の地の風習として、排便後流水で肛門を洗ふて清潔にするからであると説明する人があります。如何に肛門病を豫防するに清潔が必要であるかは、これでもわかる事と存じます。

排便後の拭淨には、新鮮で柔軟なる脱脂綿、日本紙などが最

も宜敷くあります、新聞紙、はりかへの障子紙などの如き、
 廢物を使用するは最も忌むべき事でありませす。
 さて本病の治療法としては随分色々な方法がありますが、先
 づ注射療法と手術療法であります。疾病の容體によつては、
 注射療法も應用して具合のよい場合もあります、概して注
 射法には種々の缺點もあり、且つ不確實でありますから、尤
 も適切に効を奏して且つ最も確實安全なのは手術療法であり
 ます。依りて一旦肛門に異常ある事を覺知した場合には、其
 の病症の何たるを問はず早々醫師に相談し手術を受くべきも
 のは、躊躇せずして速に手術を受くるのが宜しいと存じます。

第十章 肛門及び直腸の腫瘍

肛門及び直腸には良性の腫瘍と、悪性の腫瘍が出来る事があ
 ります。

良性の腫瘍は直接に生命に關する事は少ないが、腫瘍の大小に
 應じて便通の障害を起します、腫瘍で腸管が狭くなる爲に便
 通が甚だ困難となります、又腫瘍が排便運動の爲めに下方に
 牽引せられて出血する事があります、甚だ稀な例ではありま
 すが、十數年前から下劑をかけなければ便通がなく、時々下

第十章 肛門及び直腸の腫瘍

腹部の痛を起し注射をしては痛みを輕快して居りましたが、數年前から患者自身が左下腹部に、手拳大の腫瘍がある事を氣付いたと申します、其の患者が長く便通がなく下劑をかけたら排便時に大きな糞塊が出た様な氣がしました。いつまでたつても下へ落ちないので、手を當てて見ますと、大きな腫瘍が肛門に出て居たので、驚いて私のところへ來ました。見ますと赤なすの様な形で、大さも丁度赤なす位の腸粘膜に被はれて居る腫瘍が、肛門外に出て居りました、指を直腸に入れて見ますと、下腹部に外から觸れて居た腫瘍が腸管と共に肛門外に脱出した事が到りまして之れを摘出致しました。其

第十章 肛門及び直腸の腫瘍

の後は患者は便通も毎日あるし榮養もよくなるし、初めて樂になつたと喜んでかへりました、便秘の習慣のある人は注意すべき事と思ひます。

悪性腫瘍としては癌腫が最も多く、肛門及び直腸に出來ます癌が出來ますと矢張便通の障碍を起します、即ち癌が出來ますと腸管が狭くなつて、狭くなつた場所より上方に於ては常に大便が蓄積して腸カタルを起し、下痢と便秘が代るゝ起つて來ます、然してたんゝと惡液質に陥つて衰弱し、癌が潰れますと血液や膿汁が出て、甚だしい惡臭を放つものであります、痛みは初めから起る事もあります。又少しも痛み

が起らない事もあります。斯様な恐しい病氣でも、苦痛が割合に少いために随分手遅れになつてから、吾々の所へ来る人が多くありますが、これ等は自己の不注意と姑息の手療治等にてすまして置くより来る手遅れですから甚だ残念の事と思ひます。

此の治療法はなる可く早期に腫瘍を取つてしまはねばなりません、少し手遅れになると隣接器管に癒着したり、他に腫瘍が出店を生じたりして、手術が出来なくなつて終には其の爲めに生命を失ふ様なことがあります。其れ故前章にも申し述べました通り、凡ての場合又何等の徴

候に係はらず、早期に治療を受けるといふ事を忘れてはなりません。

俚諺に『二葉にして摘み取らざれば斧を用ふるに至る』と申しますが、此の諺は實に肛門治療に適切な言葉と信じます。吳々も御忘れなく世俗の姑息手療治に誤られて後悔臍を咬むの不幸に陥らぬ様、自重するのが肝要と存じます。

肛門病一般
皮膚淋病徵毒
專門

矢部肛門病院

光線療法科

濱松市田北新道
電話二七二番

大正十年八月廿六日印刷
大正十年八月廿九日發行

油斷の肛門病の話……奥付
ならぬ

定價金參拾五錢

不許
複製

著作兼發行者
矢部邦輔
靜岡縣濱松市田町百七十八番地

印刷者
井波修次郎
東京市神田區三崎町二丁目三番地

印刷所
同工社
東京市神田區三崎町二丁目三番地

發賣元

東京市日本橋區本石町
振替口座東京二四〇番

株式會社
博文館

169

終

